

第35回東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

1. 日 時 平成27年9月28日（月） 午後2時～4時

2. 場 所 総合福祉センター「絆」会議室

3. 出席者 ・地域福祉計画推進会議委員
（富永委員，小野寺委員，河野委員，井坂委員，野上委員，今橋委員，
松井委員，相巢委員，須藤委員，大内委員）※叶井委員欠席
・アドバイザー 稲垣美加子先生（淑徳大学教授）
・事務局 芳賀補佐，酒井主幹，高橋主幹，大平主事

4. 結 果（要点）

（1）前回議事録の確認について

- ・基本目標体系最終案，CSW 及び協議体の設置についての資料を提示し，意見出しを行った。
- ・第5次総合計画後期基本計画への記載案を提示し，意見出しを行った（その後9／7の福祉部門ワーキングで了承いただいた）。
- ・第5次総合計画後期基本計画の政策3－1の文言が，第3次地域福祉計画の基本理念に当たることを説明した。

（2）「具体的な施策」の第3次計画への記載方法及び進め方について（案）

- ・下記2点について提案し了承を得た。
 - （a）各「具体的な施策」の第3次計画への記載方法について
「実現に向けて考えられる取組みの例」として記載し，第2次計画のように各施策ごとに年次計画を設定した記載の仕方はしない。
 - （b）各「具体的な施策」の進め方について
まずは第3次計画本体の完成及び第2次計画の27年度評価を行う必要があるため，それらを優先させ，終わり次第本会議で提案していきたい。

（3）その他

- ・第3次計画の巻末に掲載する「委員からのメッセージ」欄について，一人ひとりメッセージを書いてもらうことになった。
- ・まちづくり協議会，行政協力員制度の廃止について，委員の皆さんから意見をいただいた。
- ・12月会議日程について決定した。
12／21（月）14：00 「絆」会議室

5. 結 果（詳細）

（１）開 会

（２）委員長挨拶

- ・前回会議までで、基本目標体系が固まった。皆様のご協力に感謝申し上げます。この会議も今年度の折り返し地点まで来た。１０月以降もよろしくお願いする。
- ・朝日新聞に地域福祉に関連する特集記事があったので紹介する。
（自治会・町内会、地域福祉活動者の高齢化やなり手不足の問題など）

（３）稲垣先生挨拶

今、委員長から示唆があった点について、私が知りえている情報を交えてお話したい。自治会などの地縁型組織が危機化している理由は若年層の「否対面型コミュニケーション」にある。彼等は、顔と顔を見合わせて話をするのが苦手で、職場で目の前に座っている人と、直接ではなくメールで対話したりする。こういった若者にとって、自治会の集まりに参加したり会費を徴収に家々を回ったりすることは、高レベルのコミュニケーションである。

こういった若者の特性は、彼等の親世代の作った「マイホーム型ライフスタイル（休日は家族で過ごす）」が要因だと思われる。そのため、地域と接する経験が少なく、地域との付き合いとマイホーム型ライフスタイルを両立させる知恵や方法を持っておらず、付き合いが楽な「家族」を選びがちである。このような若者達が地域に関わっていくには新しい方法を考えていかないといけない。あるいは、次世代の子ども達に働きかけていって、新しい形の地縁を作り出すくらいの覚悟が必要である。

NHKが「下層高齢者」という新しい言葉を使うようになったが、高齢者の中で本当に経済的に困窮しているのは１割である。また、介護が必要なのは３割で、今後増えいくが、予防介護がだいぶ浸透しており、元気な高齢者が増えてきた。今、一番問題なのは、「格差の拡大」であって、これは全世代に渡って起きている。例えば高齢者の中には月２０万円の家賃のケア付き住宅に住んでいるような方もいれば、一人暮らしで年金もなく生活保護で生活しているような方もいるし、稼働層でも起業家から非正規雇用の方までいる。

社会福祉サービスの世界でも、重度障がいの方には手厚いサービスが整っているが、軽度障がいの方には使えるサービスがないという事態が起こっている。そのため、今まで面倒を見てきた親や兄弟が今後いなくなったときには行き場がなくなってくる。また子ども達の中でも、豊かな家庭で育った子とそうでない子がいる。

我々が認識していかなければいけないのは、こういった「格差の拡大」であって、次期計画への宿題になると思うが、私達は東海村の適切な現状把握をし、東海村としての未来予測を立てていかないといけない。今回の計画は現状把握や未来予測に基づいたものではなく、２次から３次への修正に留まっているが、４次計画は５年かけて新しく作り直すことが必要になってくると思う。

時代の変化や格差の大きいこの時代に、他市町村では限界集落が現れてきているが、東海村は若い世代が減らない珍しい地域であり、少子高齢化の問題は他の自治体よりは少ない。いずれ人口が減っていった冠婚葬祭が成り立たないことが予測されている自治体は、それらの対策で地域福祉計画を立てていることに比べると、東海村はそこまでの深刻さが無いところで計画を立てている。

しかし4次計画では、世の中を睨みながらも、「今東海村はどういう状況にあるのか」を最初の段階で地域診断をしていって、その資料を委員の皆さんに提示し、皆さんの生活実感に合った情報をいただき、素案を立てていく準備を速やかにしていってほしい。

私達の思っている以上に世の中は激変していっており、それをマスコミはセンセーショナルに報道するが、それに流されることなく、東海村の現状把握をしっかりと行って（地べたを這いずるように）計画を作っていってほしい。

○配布資料の確認

○叶井委員の欠席について説明。

（４）議 事

①前回議事録の確認について（事務局から要点の読み上げ、内容は省略）

- ・事務局から、前回会議で検討した第5次総合計画後期基本計画への記載案について、福祉部門ワーキング（9／7）で了承を得たこと、今後パブコメにはかることを説明した。
- ・事務局より、基本目標体系最終案について修正箇所を説明した。

②「具体的な施策」の第3次計画への記載方法及び進め方について（案）

- ・事務局から下記2点について提案し了承を得た。

（a）各「具体的な施策」の第3次計画への記載方法について

2月会議で了承を得たことだが、「具体的な施策」は「実現に向けて考えられる取り組みの例」として記載し、第2次計画のように各施策ごとに年次計画を設定した記載の仕方はしない。

（b）各「具体的な施策」の進め方について

まずは第3次計画本体の完成及び第2次計画の27年度評価を行う必要があるため、それらを優先させ、終わり次第本会議で提案していきたい。

【質疑応答】

委員

質問パブリックコメントはどういう方々にお願いするのか。

事務局

HP 掲載、窓口掲示などのほかに、民児協、地区社協へも説明を行い、意見をいただきたいと思います。

委員

民児協、地区社協のほかに、住民へ広く周知してほしい。

事務局

了解した。

稲垣先生

パブリックコメントは情報開示という面で必要なことだが、それでいただいた意見全てを取り入れるのではなく、意見の精査を行い、我々で気付かなかったことに関しては真摯に受け止めるが、明らかに嫌がらせのような意見には柔軟に対応していってほしい。

しかし住民の中の1人でも（特に子ども）地域福祉計画に関心をもっていただければと思っている。

委員長

パブリックコメントの結果についても聞かせてほしい。

事務局

了解した。今後の会議で報告させていただく。

委員長

民児協，地区社協以外で意見をもらうところはあるか。

(委員の皆さんから「自治会」という意見が出たため，自治会連合会での説明を検討する)

稲垣先生

前計画の完成時にも地域の団体に説明に回ったはずだが，そのときに説明が漏れてしまった団体に今回は説明ができるようにしてほしい。委員長，社協にも相談して裾野広く説明に行ってほしい。

事務局

了解した。前計画時のことを確認しておく。

委員

行政職員だけでなく，この委員のメンバーも一緒に説明に回るようにするのはどうか。

委員長

環境村民会議では，私も参加して説明に回った。そのようなことは必要である。

稲垣先生

委員長のおっしゃったとおり，パブリックコメントの内容はこの会議で報告し，最終案を決定していったほしい。

③その他

第3次計画の巻末に掲載する「委員からのメッセージ」欄について

稲垣先生

会議では，委員の皆さんお一人お一人の意見をいただくことがなかなか難しい。また行政計画はどうしても行政用語を使いあたりさわりのない表現でまとめられてしまうため，こういったコメント欄の中でご自身の言葉で想いを表現してもらおうと，その方の参加実感も湧くし，今後の活動の動機づけにもなっていく。また，これから東海村に貢献していく人達に，この計画を通して，想いをリレーできるような機会にもなる。これまでの計画でも先輩方が熱い想いを持って携わってくださったので，その想いを一人でも多くの住民に伝えていったほしい。

委員長

皆さんには，大変だと思うがご自身の想いを文章に込めてほしい。

委員

今回の委員構成は，年代が高齢層に偏りすぎていると思う。もう少し若い世代を入れて，その人達が出られるように夜や土日に開催するなど参加しやすい環境を整えてほしい。

稲垣先生

できれば，働いている人と子育てをしている人に参加してほしい。

委員

今行政に，現役世代の人達の意見を吸い上げる場はあるのか。

稲垣先生

私は村社協にも行政にも計画の会議に若い世代の参加をお願いしている。今回行政では人選が間に合わなかったが，今後，進行管理の段階で早めに新しい人を入れていった方がいいのではないかな。

委員長

この会議でも、若い世代の方はどう考えているのかなと思う。本当は違和感を感じていたりするのではないかと気になっている。

委員

私は社協の活動計画を担当しているが、委員の方々からは年齢というよりは地域で携わっている活動によって満遍なく意見が出ていると感じている。

稲垣先生

前回の地域福祉活動計画には、大学生が委員として参画していた。それならば、この場に大学生がいてもいい。

委員

年齢の偏りは心配しなくてもいいと思うが、やるならば、高齢世代と若年世代の人数が五分五分になるようにしたり、1人では意見も言い難いだろうから、せめて3人くらいいいればいいと思う。

委員

1人の意見だと個人的な意見になりがちだが、3人としての意見だとその世代を代表した意見になると思う。

委員

委員会の性質上、地域の活動団体の代表者を人選することが多いので、若い方を多く入れるのは難しいという面もある。

稲垣委員

方法としてワーキングを立ち上げることも考えられる。その方が色々な意見が引き出されるかもしれない。

事務局

ワーキングについては今後検討させていただく。

委員

この会議では、村社協の方々はまだ意見を言わない。遠慮せずに言ってほしい。

稲垣委員

民間組織としてアイデンティティを持って発言してほしい。

委員

村社協は行政より現場に近く、地域の情報を多く持っているはずなので、会議ではそれを生かして意見を出してほしい。

事務局

この会議は4月から私が主導で進めさせていただいたが、資料の不備や遅れもあり、皆様の議論が深まらなかった部分もあったと思う。今回会議で基本目標体系が固まり、今後は計画冊子の完成と施策の実施に向けて動いていくが、この施策体系を土台とし、ワーキングの開催や若い世代の参画などの工夫もして、地域福祉についての深い議論が交わせるようにしていきたいと思うので今後もよろしくお願いしたい。

委員長

最後に1つ言いたいのが、この計画はシンクタンクを入れずに私達が議論したことをまとめて作っている。これはすごいことだと思う。今後計画をまとめていくのは大変だと思うが頑張してほしい。

稲垣先生

アドバイザーとして苦言を呈すると、当初計画の策定を簡単に考え過ぎていたと思う。しかし会議の中で、方法論についてアドバイスをいただけたと思うので、仕切り直しを早くし

て、持っている力をもっと発揮できるよう、仲間の知恵と地域の力を集結して次期計画に向けて動いてほしい。

委員長

他に意見はあるか。

委員

私は「まちづくり協議会」について危惧している。また、行政協力員の廃止で誰が赤い羽根共同募金の集金などを行うのか。また、自治会長は行政協力員としては守秘義務があったが、行政協力員が廃止されたときにどうなっていくのか。福祉の部分で心配である。まちづくり協議会でやりよくなる部分もあるかもしれないが、今まで別々に活動していたものが1つになったときにどうなるのか危惧している。

コミセンにはセンター長・副センター長が3名いるが、今後は誰がやるのかも心配である。

委員

確かに見えていない部分が多い。しかし事業は動いているから当事者としては問題である。

事務局

行政協力員制度については来年度に廃止が決まっている。

委員

それでは、今まで行政協力員が担っていたことは誰が担うのか。

事務局

各課で新たな手段を検討することになっている。

委員

日赤社資や社協会費は、自治会に一括納入した自治会費の中から支払ってもらっていた。今後は会費ごとに集めるとなると手間がかかり、住民の納得は得られないのではないか。

事務局

この件は関係課の担当が集まって方向性を決め、自治会に説明をしたいと思っている。

委員

十分検討してもらいたい、時間もない。

委員

どこの団体でも納得していないが、このまま進んでいくということか。住民の中には不満の声もあり、それでもこの路線が進んでしまうのが理解しにくい。

稲垣先生

まちづくり協議会は、定義が決まっておらず、実践が先行している。主に関西や過疎地域で先行し、どこも小地域福祉活動に閉塞感があり、うまくいかない中で起こってきたフレーズである。実施主体は自治体やNPO団体など様々だが、試行錯誤しながら、既存の取組みをリニューアルするときに使われていることが多いようである。また先行事例もあまりない。東海村は小さいが故の機動力がアダとなり、新しいものが一挙に進んでいってしまうので、皆さんが懸念しているのは当然だと思う。

ただ、どこのまちづくり協議会もうまくいっているかといえばそうではない。行政は住民が心配していることに耳を傾け、東海村としてのまちづくり協議会をどう作っていくのかを考えてほしい。行政も社協も住民に沢山依頼ごとをしているわけだから、それがどう変わるのか十分に説明をして、混乱させないように進めていくことが必要である。

地域福祉計画を担当されている職員の皆さんの権限は他課と比べると小さいのだけれど、多くの方々が皆さんをバックアップしているのだから、住民主体の地域福祉を推進する担当として、機会あるごとに発言をし、十分な説明をしてほしい。また、委員の皆さんの懸念している点も行政内部に伝えてほしい。

委員

まちづくり委員会そのものは悪いことではない。本当は検討期間がもっとほしかったが。

委員長

今回のまちづくり協議会は、地域の現状把握の結果、「必要である」として立ち上がったものではないのが気にかかる。また強烈なリーダーがいて、状況を俯瞰してやっていかないとダメだと思う。今の状況を打破するには、古いものを大事にしすぎてはいけない、壊すものは壊さないと。そういう思い切ったことをしないと変わらない。とにかく、現状把握・分析が必要である。

今後の推進会議日程について

10～11月会議日程を確認したうえで、12月会議日程を決定した。

10／28（水）	14：00	「絆」会議室
11／30（月）	14：00	「絆」ボランティア室3
12／21（月）	14：00	「絆」会議室

（５）閉 会